

鳥衣巷

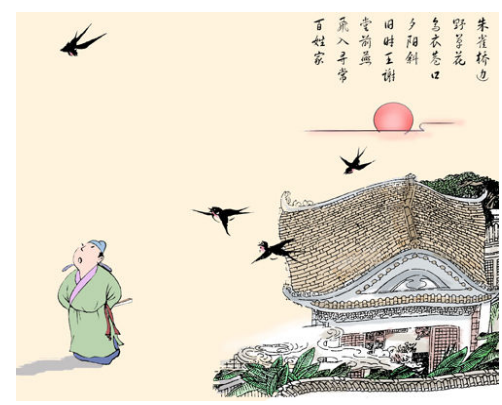
劉禹錫

朱雀橋辺野草の花

鳥衣巷口夕陽斜

旧時王謝堂前の燕

飛んで尋常百姓の家に入る



〔作者〕劉禹錫(七七二〜八四二年)中唐の詩人、大曆七年河北省定県(ていけん)に生まれる。字は夢得(ぼうとく)、号は禹錫。幼少より文才あり、貞元九年(七九三)の進士、官は檢校礼部尚書(けんこうれいぶしょうしょ)をもつて終る。柳宗元、白樂天と親交があり劉賓客(ひんかく)文集、他あり。七十一歳没。

〔語釈〕*鳥衣巷 金陵(南京)の町の名 *朱雀橋 朱雀門(都の南門)の外の秦淮にかかっていた橋 *王謝 南朝最大の貴族、王氏と謝氏 *百姓 庶民(百姓は農民も含むがここでは特定しない)

〔通釈〕六朝(りくちよう)時代に栄えた朱雀橋の辺りは、今は荒れはて野の草花が咲き、鳥衣巷と呼ばれた町の入口には夕日が斜めにさしこんでいる。昔、王氏や謝氏の邸宅に巢を作っていた燕が、今は庶民の家の軒先に巢を作っている。